

令和6年度 徳島市立高等学校 第1回学校運営協議会 協議等の概要

1 日 時 令和6年6月25日（木）午後3時10分から午後5時まで

2 場 所 徳島市立高等学校 第2会議室

3 学校からの説明等

(1) 市高の現状について

米延校長が、校長あいさつの中で市高の現状について説明した。

(2) 学校運営協議会について

米延校長が、設置要綱及び学校運営協議会の概要について説明した。

4 委員任命及び会長・副会長選出について

会長として佐々木 尊 氏、副会長として米延校長を選出した。

5 協 議

(1) 学校経営方針について

米延校長が、令和6年度の学校経営方針について説明し、承認された。

(2) 教育課程の編成について

樽見教頭が、令和6年度の教育課程の編成について説明し、承認された。

(3) 本校の教育活動の概要について

樽見教頭及び出席した各課長が、「令和6年度学校評価総括評価表」を用い、市高の教育活動の概要について本年度の重点項目を中心に説明した。

5 委員からの意見・提言等

*学校の経営方針にある、学びの改善（授業数の削減・家庭学習時間の確保）と探究活動の充実、情報教育の充実という項目が相反することにならないか、また家庭学習については生徒に学び方を教えていく必要がある。さらに現場の教員のゆとりが高い教育力につながるので、これらの方針のためにも、教員の働き方改革を進めてほしい。情報教育については大学でも教員不足となっており人材が不足している。高校等と連携しながら活動ができればよい。

*令和8年度から開設予定のデータサイエンス（仮称）については、他の学校でも取り組んでいるものかが不明だが、情報教育を市高がリードするものとして、市高の魅力に繋げていただきたい。大学入学後は全員が情報を学ぶ時代なので、データサイエンス（仮称）は、何をどのように学ぶのが重要となる。

*令和2年度以降、コロナ禍等の影響で不登校生徒が増加傾向にある。生徒個別の

問題もあれば、集団の中での問題等様々であるが、SNSや、コロナ禍における人間関係の形成の経験不足なども原因と考えられる。各学校で合理的配慮が求められているが、コロナ禍以降、大学等でもその状況が突然変化した感がある。高校での不登校の問題については、単位や進学の問題があるので、個別的対応が難しいと思うが、変化に対応して取り組んでいただきたい。

*英語の4技能とは？→4技能については、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング（読み、書き、話す、聞く）のことである。

*英語教育について、ネイティブな方と接する機会が設けられているか？→ネイティブな方々との経験については本校では先進的に取り組んでいると思うが、中学校の取り組みでもやっているところもあるので、この取組は自然な流れと感じる。

※自分の時代と比べて、英語が話せる生徒の状況というのは変化があったのか？→大分変化している。授業の中にペアワークやグループディスカッション、web上で個別にタブレットを利用して、ネイティブな方と会話する時間がある。特に聞く力は昔と比べてかなりある。

*徳島県の人口が少なくなって、労働人口が減少している現状で、留学生の受け入れに関しては、地域のグローバル化、大学だけでなく、中学、高校を含めて取り組んで推進していくことが必要である。また進路指導についても、徳島県の人口も含めて考えていく必要がある。地元にどういう進路先や就職先があって、住みやすさ等のことも含めて、若い人たちに徳島の良さを見据えた進路指導もしてほしい。

*市高の制度や進路指導等について、きめ細やかな取組をしていることが分かり、大変良かった。